

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(西院幼稚園)

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	・遊びの提案を引き続きしながら、安心感、自信をもって人とかわる心地よさを感じていくように保育実践を重ねる。 ・親子で絵本の取組については、保護者啓発に力を入れる	・保護者からの聞き取り・幼児記録から事例検討。 ・アンケート項目「自分から遊びを見つけて楽しんで遊んでいる」 ・絵本ボランティア親子絵本貸出、絵本100冊 ・アンケート項目「絵本やお話が好きなこと」
	幼小接続の視点	・数少ない交流を有効に子どもの育ちにつなげるため、事前事後の園内の話し合いを充実させる。 ・公開保育については、残る一回で参加者の一言アンケートなどをとり今後につなげる。	・幼児記録・事後の記録。 ・教員自己評価 ・アンケート項目「幼小連携ができています」
	心と体・生活習慣	・教員の意識の高揚、保護者啓発の不断の努力	・健康カードでの生活習慣のチェック ・保育に意図的に入れているか
	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・異年齢交流を通して、自己有用感や自己調整力を身に付けていく。 ・友達関係に着目して子ども	・幼児記録事例の検討 ・アンケート項目「気の合う友達がいる」「友達の話をよく聞いている」
園独自の項目	園内研修の充実(OJT)	・学期に2回の事例検討 ・公開保育 ・週案のねらいと反省評価の連動 ・年度末の成果物作成	・教員の自己評価 ・週案 ・友達関係に関するアンケート項目
	預かり保育の充実	・預かり保育内容の検討・豊かな遊びの経験の観点から、預かり保育の有用性をさらに伝える ・保育者の連携	・預かり保育の参加状況 ・保育記録の改善と活用
	公立幼稚園の教育を理解してもらい、入園につながる子育て支援の充実	・広報に力を入れつつ、地域の子育て支援をしていく。11月は未就園児に幼稚園の保育を体験してもらう取り組みをする。	・未就園児クラスの参加状況 ・保護者からの聞き取り ・幼稚園説明会の参加状況・アンケート



自己評価		
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	評価日	平成29年2月28日
	評価者・組織	評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・アンケート項目「自分から遊びを見つけて楽しんで遊んでいる」94%・幼児記録からはめめて遊んで遊ぶようにはなったが、遊びの深まりが見られないことが分かる。 ・絵本100冊は17人達成。親子絵本貸出日の参加率が悪い。・アンケート項目「絵本やお話が好きなこと」84%・保護者からは子どもと読んだ本を記入するのが面倒との意見	・めめて遊んで遊ぶようになったのであれば、子どもの思いが実現するための環境構成が不十分だったのではないかと。友達と協同できるようになってきているが、子どもが意識できる働きかけが弱かった。・保護者からの意見に対して、啓発ができていなかった。	・親子絵本貸出日に多くの保護者に参加してもらい、預かり保育行事との関係性を考え、日程の変更をしていく。 ・保護者からは、子どもと読んだ本を記入するのが面倒との意見に対しては、別の角度から子どもと共に絵本について話し合い、感想を記入することの重要性を保護者に啓発していく。 ・遊びの中での子どもの成長を見ていく教員の資質向上
・今年度の交流は事後の話し合いができた。 ・公開保育は年間3回実施 ・アンケート項目「幼小連携ができています」は97%と大幅に増加	・子どもたちは小学校に慣れる気持ちが出た。 ・小学校の教員にも協力してくれる方が出てきた。 ・子どもの育ちについての反試合まではできていない。	・次年度も事前事後の話し合いをもてるように働きかける。 ・アプローチャリキュラムの作成をし、子どもの育ちについて共通理解を図る。
・教育計画・週案からは、体を動かす遊びが少ないことが分かる。 ・健康カードと子どもの生活習慣結びついていない	・前期と同じ反省計画になった。担任はこれまで意識が行かない。	・園として健康カードの意義を伝える機会を学期ごとに持つ。(保健職員を中心に)・クラス全体で体を動かす遊びを取り入れる週案の作成
・「気の合う友達がいる」91.9%・先生や友達に自分の気持ちを伝えている」70.3% ・エピソードの検討は回数減。・子どもの姿から人とかわる楽しさは感じるようになっていた。	・異年齢交流は幼稚園の仲間として成果があった。 ・子どもの姿から、自分の思いを伝え、考える姿勢が出てきた。	・一人一人の顔が分かる異年齢交流を目指す。グループは3・4人程度にし、顔写真をはるなど視覚で分かる工夫をする。
・事例検討がの回数減った。・反省評価はねらいと連動する意識が低かった。 ・公開保育は地域に発信できた。・友達関係は良好との見方がアンケートのそれぞれから70%以上。 ・成果物はいまだ作成中。	・成果物のまとめに際して、研究の方向性が定まっていなかったことが課題。	・年度初めに計画をきちんと立て、実行する。 ・教員が集まれる機会が減ってきているので、夏季休業中の研修日を有効利用する。
・年少組の参加は増えた。 ・保育記録が全教職員に活用されていない。	・預かり保育担当者と担任の連会はとれるようになった。	・保育記録の回覧 ・保護者への預かり保育の意味の啓発
・未就園時の参加状況は減ってきている。	・チラシの配布など、PTAの力を借りる。	・子育て支援を園全体で取り組んでいく。 ・地域の未就園児とその保護者に保育に参加してもらい、保育内容の公開をする。 ・地域の子育てステーション事業・自治連合会と連携しながら広報を広くし、継続していく。



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月3日
評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・幼稚園は思いっきり遊んで子ども同士も親同士も結びついていくところ。遊びを大事に教育してほしい。 ・絵本を親子で読む面白さが伝わっていないと思う。幼稚園で何度も繰り返し啓発することも大事である。	・絵本ボランティアを小学校の絵本ボランティアの力も借りて、月1回程度開催し、絵本を紹介するなど活動をしていく。
・交流と接続はどう違うのか。アプローチャリキュラムとはどんなものか保護者にも分かりやすくする必要はある。	・橋渡しする条件を活かし、さんだん小学校で実体験をしたらいい。学校運営協議会としても小学校に働きかける。
・生活習慣の確立には他の支援の仕方が必要ではないか。	・園児等1等区は生活習慣が素早くやむ訪問を始める。幼稚園と連携して生活習慣の確立等も話していく。
・保護者の感覚も昔とは変わってきて、人に迷惑をかけたくないゆえに人とのつながりが薄くなっている。 幼稚園の時期ならではの人のつながりを大事にしたい。	・人とつながっていくためには役立ち感が大事。保護者はPTA活動が大きいし、子どもは異年齢交流が大きく役立ち感が持てる活動と思う。PTA活動を支援していく。特に夏のちびっ子プールは学校運営協議会からも地域に働きかける。子どもたちへは地域のつながりを感じてもらう。
・今後公開保育などの機会をつくらせたい。	・機会を見つけて幼稚園の保育の様子や行事での子どもの姿をみて、感じたことを伝えていく。
・幼稚園の現保護者としては、子どもを長く預けたいと思っているのか、保護者のニーズを把握する必要がある。 ・音のように降園してから友達の家遊びに行く機会も減っている。幼稚園の預かり保育で友達と遊ぶ楽しさを味わったらい。	・遊びの補充から考えると、多様に経験ができたらいと思うので、地域の人材活用ができるように、人材を紹介していく。
・保護者のニーズは何か。	・チラシ等の配布や自治連合会の掲示板などで幼稚園の行事を広報していく。

3 総括・次年度の課題

- ・学び支援部の活性化・・・特に絵本ボランティアの活性化
- ・子育て支援部・・・他機関とつながり活性化を。
- ・子どもも保護者も公立幼稚園の良さである人とのつながりが意識でき、よりつながっていけるようにPTA活動や地域の活動を支援していく。学校運営協議会の働きなど全保護者に伝え、地域が支援していることを理解してもらう。